

講義レジュメ

内容・テーマ	講師 <u>室崎 益輝</u>
<u>防災と社会教育</u>	期 日 <u>2018年8月17日</u>

(1) 防災教育の必要性

災害を引き起こすのも、災害で苦しむのも、災害を防ぐのも人間である。それゆえに、人間が強くならなければ、命も暮らしも文化も守ることができない。その人間を災害に強くするためには、防災教育が欠かせない。

防災教育の必要性は、大震災の教訓としての減災の考え方からも確認することができる。減災では、手段の足し算としてハードウェアとソフトウェアに加えてヒューマンウェアが欠かせない。そのヒューマンウェアの基盤となるのが防災教育である。

(2) 防災教育の方向性

災害に強い人間には、減災の「心、技、体」と減災の「意識、認識、知識」が必要で、それを磨くためのプログラムや実践が求められる。減災の心を育むこと、自然と社会を良く知ること、減災の生活文化を身につけることなどが、防災教育には求められる。そのために、現場主義、集団主義、総合主義を大切にされた教育が欠かせない。

その教育では、災害伝承を忘れてはいけない。災害の教訓に学ぶこと、地域の災害の歴史を伝承することを、防災教育の基礎におくことを忘れてはいけない。

(3) 三位一体の防災教育

家庭、地域、学校の3つの教育を一体のものとして捉え、相互に連携して取り組むことが大切である。その中で、地域でしかできない教育があり、多世代の連携や地域の災害学習など、地域教育や社会教育の果たす役割は大きい。